

第 25 回高知市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和 8 年 8 月 3 日 (月)
開会：午後 3 時 00 分 閉会：午後 4 時 50 分
- 2 開催場所 高知市役所たかじょう庁舎 6 階 大会議室
- 3 出席者
- (構成員)
- | | |
|--------------|-------|
| 高知市長 | 桑名 龍吾 |
| 高知市教育委員会 教育長 | 永野 隆史 |
| 委 員 | 谷 智子 |
| 委 員 | 森田 美佐 |
| 委 員 | 関 博之 |
| 委 員 | 大澤 梨佐 |
- (市長事務部局)
- | | |
|---------------|-------|
| 副市長 | 神谷 美来 |
| 副市長 | 弘瀬 優 |
| 政策企画部長 | 大宮 剛夫 |
| 政策企画部副部長 | 山本 晋平 |
| 政策企画部副部長 | 岡 里香 |
| 政策企画課長 | 村永 京介 |
| 政策企画課総合政策担当係長 | 清遠 佳澄 |
| 政策企画課総合政策担当係長 | 有城 慶祐 |
| 政策企画課主査補 | 田内 寛人 |
| 財産政策課長 | 出口 忠彦 |
- (教育委員会事務局)
- | | |
|----------------|--------|
| 教育次長 | 田邊 裕貴 |
| 教育次長 | 濱田 光 |
| 教育政策課長 | 山下 隆文 |
| 教育政策課企画調整担当副参事 | 野町 はる奈 |
| 教育政策課課長補佐 | 田中 茂夫 |
| 教育政策課総務担当係長 | 池上 弘倫 |
| 教育政策課主査 | 四國 真衣 |
| 学校教育課長 | 入江 洋 |
| 学校教育課副参事 | 佃 典高 |
| 学校教育課教育企画監 | 宮田 純子 |
| 学校教育課学力向上指導監 | 森田 やよい |

学校教育課班長
学校環境整備課長
学校環境整備課施設整備担当副参事

林保 ひとみ
大黒 貴司
野瀬 茂実

4 議 題 これからの学校の在り方について

【報告事項】

業務量管理・健康確保措置実施計画について

5 議事の経過

以下の内容について、資料に沿って説明

- 高知市人口の現状等について
- 公共施設マネジメントに係る現状と課題
- これからの学校の在り方について

● 議論

(谷委員)

市の現状の説明を聞いて驚いているというのが率直な感想であるが、物事を前向きに捉えて考えていくことは大事だと思った。また、40 年ほど前、当時の教育長がおっしゃっていた「夜空の星を仰ぐより、目の前の麦を踏み」という言葉を思い出した。今この現状を見たときに、子供を幸せに育むために、高知市ができることの中で何をするかということが重要な課題と感じた。

(関委員)

人口が減少すると言われているが、それを当たり前に思っていること自体も一つの問題であり、人口減少ありきではなく、きちんと分析を行い、人口が増えるように考えることも必要であると思う。男女共同参画という言葉もあるが、女性が仕事に出ていくということも大事ではあるが、出産・育児も大事ではないかという考えが一つあっても良いと思う。また、子供たちが幸せな人生を送るために学校はどうあるべきなのかという話もあったが、子供たちの幸せな人生のために何が大事なのか、幸せなのかということではなく、「わがままを通させることが幸せ」と履き違えているといった問題もあると思っている。いわゆるハラスメントについても、なぜそうなったのかを考えていくことも大事だと思う。

次に、人口減少することを受けて、どのように対応していくかという話もあったが、人口が減少せずとも子供を育てるためにやるべき内容というものもあり、その辺りを区別して考える必要があると思う。また、子供たちそれぞれにとっての良い幸せにつなげるためにも、子供たちをどのように教育していくか、理想像のようなものが必要だと思う。

(桑名市長)

教育委員会だけでなく、全庁を挙げて人口減少問題に取り組んでいるが、他市町村も子供を産み、育てやすい社会でなくては子供が増えることはないという思いをもって、対策に取り組んでいる。ただ、現状、急激に人口が増える見通しが無い中で、どのように対応していくかということを皆様に議論いただいております、今後、人口減少にどのように抗って人口を増やしていくかという議論を、より深めていく必要があると思っている。

(森田委員)

まず一つ目として、全体的なデータを見て危機感をもったが、市民の方にもデータを客観的に見ていただき、このままで良いのかということを一一人一人に考えてもらうというプロセスが必要ではないかと思った。二つ目に、子供が減少していく中で、特別な対応、見守りや寄り添いが必要な子供は増えているということが分かり、教職員がより一人の子供に対して目を行き届かせられるようなシステムや仕組み作りがこれからの教育の中で必要ではないかと思った。

最後に、子供たちの幸せについて、「あなたの夢はこれだから、これになりなさい」といったことではなく、夢と一緒に見つけていく、また、達成に向かって伴走できるような支援が必要であり、「一人一人のあなたにしかできないこと」を寄り添って考えていけるような学校が必要だと思う。

(大澤委員)

人口減少が進んでいるということは肌感覚でも分かっていたが、このようにデータで見ると、学校の問題だけではなく、いろいろな施設の老朽化も進んでいるということが分かった。

自分が小学生の頃は、通学途中に出会う近所の人に挨拶することも当たり前であったが、今は知らない人には話しかけてはいけない、話しかけられても答えてはいけないといったように、何かすごく寂しいと思う。

また、運動会も、昔は家族総出で見に行き、お弁当を食べながら一日行うということが当たり前であったが、コロナの影響もあり、半日になるなど、行事もすごく簡素化されている。また、コロナの影響だけでなく、共働きが当たり前となり、時間を割けない保護者も多くいると思う。

学校だけで子供たちを見て、育てていくということ自体が、教職員の担い手不足も含めて難しくなっていることを考えると、自分が仕事で高齢者の方が子供たちと触れ合うことですごく元気になる姿を見ているということもあるが、様々な年齢の人たちが交流する場所という役割も学校にあって良いのではないかと少し思っている。

(永野教育長)

教育委員それぞれの経験と立場の中からの貴重な意見に感謝する。関委員がおっしゃっていたこれからの教育委員会のスタンスについて、人口減少という現実があるから仕方なく仕組みをもう一度見直すということでは決してないと思っている。人口減少は現実ではあるものの、もっと社会的な期待、要請の中でこれからの教育はどうあるべきなのかという論議を行う必要があり、高知市、その中でも高知市の子供たちがどのように幸せになっていくかという部分を構築していくことが私たちの役割と考えている。

今、教育に関わっている施設も本当に悲鳴を上げており、市長部局の方々にも協力いただき、逆に新たな学校作りを行うチャンスではないかとも思っている。保護者や市民の方々に對して、どのようなメッセージを私たちが送るのかということが非常に大事だということを皆様の言葉で再認識した。近年、新しい学習指導要領で、一斉ではない、一律ではない、同質ではない、言わば「個別最適」という言葉を全面的に打ち出して、新たな教育の展開をしていこうとしているが、これに對して、私たちの教育内容がどのように追いつくか、教育内容を構成するに当たって必要な建物などがどのように構成されて、そこに子供の教育をどのように移すのかといったような全体的な話でもある。また、高知県、高知市の子供たちは、学力調査等の様々な調査結果が大変厳しい状況にある。

一方で、子供たちの特性として、非常に明るくて屈託のない伸び伸びとした表現ができる子供たちがいることがアンケートや統計結果でも出ており、勉強は苦手だが、とにかく人と接するのが好きといった調査結果も出ている。そうした高知の子供の特性の良さをもっと学校の中にかاشていきたいと思うが、全国の指標と比較すると、家庭環境が厳しい子供たちの割合が高い。極端な例ではあるが、現実に、夏休みの間にお昼ご飯を食べられず、2学期に入る前に痩せて登校するといった家庭もあり、そういった事例も他県と比較すると少し多いと感じている。

こういった様々な環境がある中で、新たな学校作りを教育委員会だけで考えることは到底不可能である。繰り返し市長部局での会議でもお願いしているが、建物云々は別として、市長部局と一体となった学校経営ができないと子供たちの居場所を確保できないと思っている。全国の事例を見ると、子供の安全を守る部門や、経済的な困窮を救う部門、健康を守っていく部門、様々な市長部局の方々のサポートが学校運営と一体的にあるような学校作りも事例として出てきている。

お配りしている、文科省が去年出した資料でも紹介しているが、学校を中心とした新たな公共施設の複合化の事例は様々な形態がある。端的に言ってしまうと、公民館、あるいはコミュニティ施設と学校が一緒にある事例や、単に空間だけでなく、市職員も学校のそばへ来てくれるといった学校もできている。それだけでなく、地域によっては、地域の得意な分野で学校を作るといったこともあり、様々なことが想定、想起される。これから、もっと自由闊達に、皆様の御意見を頂戴しながら、保護者や子供たちはもちろん、地域の方々にも高知市の学校作りが始まったというメッセージを強く出していきたいということが今の私の気持ちである。

（桑名市長）

教育長から話があったように、本当に高知市は様々な家庭があり、厳しい環境の子供たちが多いと言われている。ただ、今「こども計画」という計画があり、小学校5年生から高校2年生、また若者に対して合計5,000人ぐらいアンケートを取ったが、大変自己肯定感が高く、「今の自分が好きだ」、「この高知市が好き」といった回答が90パーセントを超えている。厳しい環境の中でも、「自分が好きだ」、「高知市が好きだ」といった自己肯定感をどのように下げないようにするのかということが社会であり我々の仕事と思っている。その中でやはり学校はものすごく大切な場所でもあり、心の拠り所、大人になっても帰る場所でもあると思う。

ただ、人口減少の中で、学校の在り方というものもやはり時代とともに変化しなければならぬと考えている。大澤委員がおっしゃったように、高齢者と触れ合うような場所が学校の中にあって良いかも知れない。またアンケートの中でも、「人と人との触れ合いの場が必要。構えてほしい」といった声が多く、今の子供たちはスマホやゲームに夢中かと思いきや、実は人と人との触れ合いを求めている。「市長と語ろう会」という会を、大学生、高校生、働く人たち、子育て世代にそれぞれ分けて行ったが、皆様から触れ合える場所が欲しいといった意見があった。人間の本質として、こういった意見が出るのではないかとと思っている。

今、一通り皆様から意見を聞かせていただいたが、昔の学校は、「教育の現場」であったと思うが、それも時代とともに変化しているとも思う。学校や施設の今後の在り方について考えがあれば聞かせていただきたい。

（谷委員）

昔から大きく何かが変わったという気はしていないが、工夫して対策しても厳しい状況にある、人口減少という問題と向き合いどうするかを考えていく必要もあるが、同時に、予算不足の中、学校施設の老朽化についても考える必要があり、そういった現実を踏まえ、子供への教育をどのように行うかを考えることが重要ではないかと思う。

また、この学校の在り方を検討する際に一番大事なものは、やはり地域、PTA、保護者である。子供をもちろん中心に据えなければいけないが、地域や保護者も重要である。基本方針はものすごく重要だと思うが、教育委員会で素案を作成して、審議会で議論をするという進め方については、もっと丁寧に進めると良いと思う。

まず、今学校で関わっている青少年育成協議会など、学校の体育館を使用している体育会や町内会など、各学校で常に学校の子供たちのことを考えたい、協力したいと思っている団体がたくさんある。この地域の方々を抜きにして、教育委員会が自分たちで素案を作成し、アンケートに回答してもらおうといった進め方ではなく、まずこういった現状があるということを、地域の会や責任のある人たちに集まってもらい話をして巻き込んで基本方針の素案を作るといったように、もっと丁寧に進めていく必要があると思う。

審議会は素案がほとんど出来上がってから開催されるため、その前に基本方針や方向性を地域などに話をして、まずは自分たちに相談してくれたという思いを地域に持ってもら

うことがものすごく大事ではないかと思った。学校は学校だけで教育はできず、地域のおかげで成り立っているという部分もあり、地域をないがしろにして新たな教育といっても、上手くいえないと思う。実際に学校現場でそのようなことを感じたことがある。

(桑名市長)

その通りだと思う。このような話をすると、総論に理解はいただけるが、自分の地域の話になると、各論の厳しい意見が出る。この学校の在り方と合わせて、市全体に 900 以上の施設や 3,000 棟を超える老朽化している大きな施設もあり、同じように議論していく必要がある。今後、市長自ら、「今の高知市の現状はこうなっている」という説明会を行うことからまずは始めていこうと検討している。いきなり素案を出されたとしても、地域の方は困惑するため、一歩ずつ丁寧に対応していくことや、どのような方法でより丁寧に説明していくかということを検討させていただきたい。

(永野教育長)

事前にいろいろな方々からのアドバイスをもらいながら着手し始めているが、学校の在り方について、絞った言い方にはなるが、先ほど政策企画課から話があったように、子供がもういないから来年、再来年に廃合するといったことではなく、これからの学校はどのようなしつらえが必要なのかという論議を深めつつ、現実を見ていくということが必要であり、時間はかかると思う。

個人的に追手前小学校の統合や、南高校や国際高校の統廃合に携わった経験もあるが、行政が丁寧に説明したつもりでも、学校関係者や地域の方々の腹に入っていないといった場面を多く見てきた。相当の準備を行い、時間もかけ、しっかりと関係者を始め、地域の方々にも丁寧に説明をしていくということが大前提であると思っている。

「どのような学校にしたいか」という私たちの思いと、外枠、デッサンとしてのプランがなければ、論議のしようがないと思っている。その辺りの兼ね合いをしっかりと教育委員と改めてこれから話し合っていきたいと思う。

(関委員)

いくつかの資料の中で、学校の複合的な役割の話もあったが、実現すればいろいろなことを子供たちやPTA、青少年育成協議会などが一緒になってできるといったふわとしたイメージはあるが、教育長が言われたように、いろいろなことを皆様としっかり詰めていかないとできないということもよく分かり、なかなか難しい話であると感じた。

(森田委員)

先ほど地域の方に説明をしてもなかなか伝わらないという話もあったが、より聞いてもらうためには、例えばそういった方々に対して、どういったことが困るようになるのかということを可能な限り具体的に示すということが必要なのかもしれない。

例えば、学校までの距離がすごく遠くなる、遠くなると台風のとくに迎えに行くことが難しくなるといったように、伝統や愛着ではなく、実際に統廃合されたときにこういったことが困るようになるのかということをより具体的に聞いていく必要があると思う。

また、学習指導要領などと関係して実現しないかもしれないが、子供たちにどのような学校が良いかということを考えてもらう機会があると良いと思う。子供たちは、高知市の将来の市民でもあり、自分事として考えてもらうというようなことがあっても良いと思った。

(永野教育長)

他県の例であるが、新しい学校作りをするときに、子供たちにディスカッションの場を設け、実現まではいかないものの、それをどのように実現させるかということをお大人の方から示すといった取組もあるため、参考にさせていただきたいと思う。

(大澤委員)

資料を見て初めて分かったこともあり、自分の地域だけの問題だけでなく、高知市、高知県全体の問題であるということをおまず理解してもらわなくてはならないと思った。保護者やPTAの方などの意見も重要であるが、小学校があると思って家を建てる人もいるかもしれない。

そういった、今後その地区の小学校に子供を通わせる可能性がある保護者にも、話を聞いてほしいと思った。また、他県の参考事例などをお知ることでお選択肢が広がることもあると思う。ただ学校が統合される、無くなるといったことだけでなく、いろいろな選択肢があるということも示した上で、地域の方から話を聞くことが重要だと思った。

(桑名市長)

本日、高知市の現状をお知っていただいたが、これから議論を深めていかなければならないと思っている。今回の会議は、これからの学校の在り方を検討するに当たってのキックオフとして始めさせていただいたが、今後は学校の適正規模などの検討にも取り組む必要がある。

もちろん、関係者に大きく影響するため、学校の統廃合ありきで進めることは有効的ではなく、児童生徒やその保護者、教育関係者などの関係者の意見も十分に聞きながら、御指摘のあったように、丁寧に進めていかなければならないと思っている。学校の在り方については、今回の総合教育会議で終わることなく、議論を継続していく必要があるため、必要に応じて、皆様方に意見を頂戴したいと思う。よろしくお願ひする。

(永野教育長)

非常に長期的な視野の中で、学校の在るべき姿を考える必要もあるが、現実的に、大変規模が小さくなり、無くなることが目の前に来ているのではないかと心配している学校も実はある。そういった学校に対しては、早目に保護者や地域の方々へ相談していくということ

が必要だと思っており、また、学校の在り方についてはしっかりと論議していくものの、今、命を守らなければならない学校の在り方についても並行して考えていく必要があると思っている。政策企画課や財産政策課、あるいは建築部門の方とも早急に相談をしながら話をまとめていく機会もあると思うが、その点は承知をいただき、相談させていただきたいと思っている。どうぞよろしくお願いします。

●報告事項「業務量管理・健康確保措置実施計画について」資料に沿って説明

（谷委員）

非常に分かりやすく説明いただき感謝する。この三つの目標について、全員が達成できたら良いと思っている。非常に分かりやすくまとまっており、あとは実際に達成に向かって頑張れると良い。

（関委員）

教職員時間外在校等時間について、家に持ち帰って行う仕事は含まれるのか。

（入江学校教育課長）

持ち帰った業務は在校等時間には含まれない。ただ、持ち帰り業務は国の方からも原則禁止とされている。当然個人情報に関係もある。今、学校を訪問していく中で、どうしても教材研究で持ち帰りがあるということは聞いている。極力持ち帰らなくてもいいような体制づくりに向けて、学校の管理職等と話を進めているところである。

（関委員）

教職員の中には、目標を達成するために逆に頑張ってしまう人もいるのではないかと思った。

（森田委員）

電話対応に先生方の時間が割かれていると思う。例えば職員室で児童の教育方針を議論していても、電話が鳴り止まず、話が進まないという場面を見たことがある。また、お怒りの電話を受けることもあるが、やはり若い先生方には驚きが強く、それが原因で学校へ来たくなくなるといったこともあり、例えば、録音で対策するという方法を検討しても良いと思う。

私の知っている職場では、導入した結果、そのような電話が減り、職員が働きやすくなったということを聞いている。建設的に話をしたくとも、最初から怒った状態で電話を受けると、先生方も休みたくなると思う。

(大澤委員)

教育現場のことを詳しくは知らないが、医療現場とすごく似ていると思った。医療現場も働く医師や看護師の见えない労働で賄ってきた歴史がある。働き方改革が進む中で、病院もタスクシフトが少しずつ進み、医師、看護師しかできない仕事以外は医療事務などに担当してもらおうという流れが進んでいる。先生たちが時間外含め一生懸命子供たちのために努力してもらうことはすごくありがたいが、それで心が潰れていってしまうと、なかなか良い教育を提供するということは難しくなる。少しずついろいろな人の手を借りながら、先生でないとできない仕事に集中できる環境をこれからも作ってほしいと思った。

(永野教育長)

医療現場の方々との同質性について、私もいろいろな方に聞いたことがある。資料 19 ページの中段に、令和 7 年度の取組として、業務量管理業務を抑制するために、様々な方々にサポートに回っていただいていることを紹介している。学校配置支援員等いろいろな方がいるが、自分が教壇に立っていた頃は、このような支援員はいなかった。

これは、当時私たちにスキルがあったというわけではなく、その時代には家庭的なサポートがあり、理解度も高かったように思う。今、教師の業務量は本当に膨大になっており、このようにサポートにあたらせてもらっているが、時間的な管理はこのように進んできたものの、やはりメンタル的なプレッシャーは計り知れず、休みを取るという事例も出てきており、非常に厳しい環境にもある。

もう一つ感じる事として、教員の働き方改革が制度上進んできたが、地域の方々の理解度が十分に達していないと感じる。先生たちは自分たちの時間業務量を管理して早く帰ることができるようになったが、地域の方々が朝の交通指導や運営協議会、地域行事への参加といったことにたくさん協力している一方で、学校の先生は非常に淡白になったのではないかとといった話もあり、理解度が足りていない現実がある。どのように地域の方々にも市民の方々にも、教員の働き方の有り様を分かっていたかどうかということと同時に、教員の方もどのように地域と共にある学校づくりのために仕事ぶりをどうするかというところもしっかりと設計し、手を打っていく必要があると思う。しっかりとその辺りを踏まえ、働き方改革を進めていきたいと思う。

(桑名市長)

教育、先生というものは本当に尊い、素晴らしい仕事だと思っているが、先生になると対応が大変で離職される方も多いと聞いており、実際にそういった傾向もあると思う。そうすると今後先生を目指す人たちが、先生にならないという悪循環につながっていると思う。悪循環を断ち切るためにも、しっかりとこの目標を達成するように我々市長部局としても対応していきたいと考えている。

これからの学校の在り方ということで、今日はキックオフの会議であったが、現状を見て皆様方も驚かれたと思う。今日の話は、人が減ってきた際の学校の在り方という否定的な話

になってしまったが、変化に応じてアップデートしていくことを進めていきたいと思っている。

未来の子供たちのために、この現状の中で何ができるのか、そしてまた更に教育を高めていくために何をしなければならないのかということをしっかり議論していきたいと思う。

そして今日御意見いただいたように、市民の皆様方にまずは現状を知っていただくということは大事であり、それと併せて丁寧に話をしていくということにしっかり努めていきたいと思う。今後、未来に向かって、新しいものが生まれていくのではないかと期待しているところでもあるが、引き続き協力をお願いする。